

2010.2.13(土)

安全安心を推進

県予算案

医療

2010年度徳島県予算案は経済・雇用対策とともに、県民の生命を守る「安全・安心の推進」にも力点を置いた。「地域医療再生元年」と位置付け、県内の地域医療が抱える課題解決に向けた計画に取り組みほか、30年以内に60%の確率で起きると予測

される南海地震に備え、県民の防災意識向上を図る事業を展開する。このほか、高速道路の上限料金制導入などを視野に入れた公共交通利用促進や新料金活用戦略、環境教育を重視した温暖化対策などにも力を入れる。

海部病院に産科医

がん患者支援へ拠点開設

け入れを休止している県立海部病院（牟岐町）に

3月に県条例を制定する予定のがん対策では、

点となるセンターを開行つ。

は、4月から徳島大の内科医と産婦人科医を新たに派遣。病院敷地内に整備する宿泊・研修施設「地域医療研究センター」の設計に着手し、派遣医師や医学生の受け入れ態勢を整える。

県医療政策課は「基金を最大限に活用し、県民が安心して医療を受けることができる体制を確立」としている。

2010年度を「地域医療再生元年」と位置付け、県内の地域医療が抱える課題解決に向けた計画（13年度まで）に取り組む。国の交付金を財源とする「地域医療再生基金」（50億円）を活用。

医師の相互派遣や応援診療の協定を結んでいる三好市の県立三好、市立三野、つるぎ町立平田の3病院には、患者の電子カルテを共有できるシステムを導入。3病院間の連携を強化し、県西部の医師不足を補う。

三好市と市医師会などが運営する「夜間休日診療所」や、医師のいない同市山城地区での出張診療所の開設準備も進め

計画の柱は▽救急医療体制の整備▽医療機関の機能分化・連携▽へき地

医師不足解消や救急医療の充実を図る。

・地域医療対策▽医療従事者の養成・確保対策の4本。10年度予算案に約7億9300万円を盛り込んだ。

分娩や土曜日の救急受

る。